

再発見。あなたの知らない上市町。

RE:DISCOVER KAMIICHI

2024
SPRING

VOL.
4

継がれていく富山県上市町

TAKE
FREE

劔岳のふもとのまち

上市町

RE:DISCOVER KAMIIICHI

上市町に住んでいる人にも、町外・県外の人にも、
もっと上市を知ってほしい。そんな冊子です。

VOL.4 継がれていく富山県上市町

- REPORT 1 「眼目山立山寺」母観音 入仏開眼法要 1
400年の役目を終えた母の木が、観音像として蘇る。
- REPORT 2 富山県警山岳警備隊、唯一の女性隊員 3
田中明希子さんが語る「山との向き合い方」
- REPORT 3 上市町の姉妹都市 千葉県九十九里町 5
山のまちから海のまちへ。上市町と九十九里町との繋がりを探りに行きました。

「眼目山立山寺」梅観音 入仏開眼法要

クラウドファンディングで日本中から支援の輪
400年の役目を終えた梅の木が、観音像として蘇る



1 370年に建立された「眼目山(がんもくさん)立山寺(りゅうせんじ)」は、大徹宗令禅師によって創建された曹洞宗の名刹で、その付近一帯は町の森林セラピー基地にも認定されています。参道の入り口には真つすぐ空へ伸びる杉が立ち並び、200メートルほど進むと県の天然記念物である梅(トガ)の並木が現れます。梅は高さ約20メートル、太さは約3メートル。その圧倒的な見応えは400年余りの間、訪れる人々の心を癒してきました。「さっかの寺」と呼ばれ親しまれているこの寺で、クラウドファンディングを活用した新たな取り組みが行われました。

ための法要を」。不安要素の絶えない社会情勢の中で、地域の人々に心の安寧をもたらす観音様の建立、そして入仏開眼の大法要を開催するという企画です。2023年4月1日にスタートしたクラウドファンディングは、日本全国から多くの人々の賛同を得て、目標金額の300万円をわずか4週間で達成。ネクストゴールとして、観音堂の整備や境内の回廊柱(えこうばしら)建立に充てるための費用としてプラス200万円を設定し、こちらも目標を大きく上回り、トータル582万円の支援が集まりました。

「観音様の住む森」に 新たな守りの化身が誕生

美しく神秘的な梅並木の景観・役割を後世に残し続けるため、立山寺では梅並木の整備に取り組んでいます。しかし、梅の木の中には近年の気象状況などに因り伐採や治療を余儀なくされた状態のものもあり、「伐採せざるを得なかった木を活用して、永遠の見守りの化身である観音様を新たに建立してはどうか」という案が持ち上がりました。立山寺には「雀の恩返し」という昔話も伝えられていることから、観音様との縁も深く



地域の安寧への想いが一つの目標を遥かに越える支援の輪

プロジェクトテーマは、「梅並木を守り、地域の安寧を願う



「観音様の住む森」とも言われてきました。梅並木の参道、三門・中雀門を抜けた廻廊、観音堂の十一面千手観音の周りはそれぞれ33体の観音様が祀られており、そこに今回、上市町の仏師・住吉太雲氏が約1年の歳月をかけて一心に制作した「人々の祈りと願い」が込められた「千手千眼(せんじゅせんげん)観音像」が新たに加わることになりました。

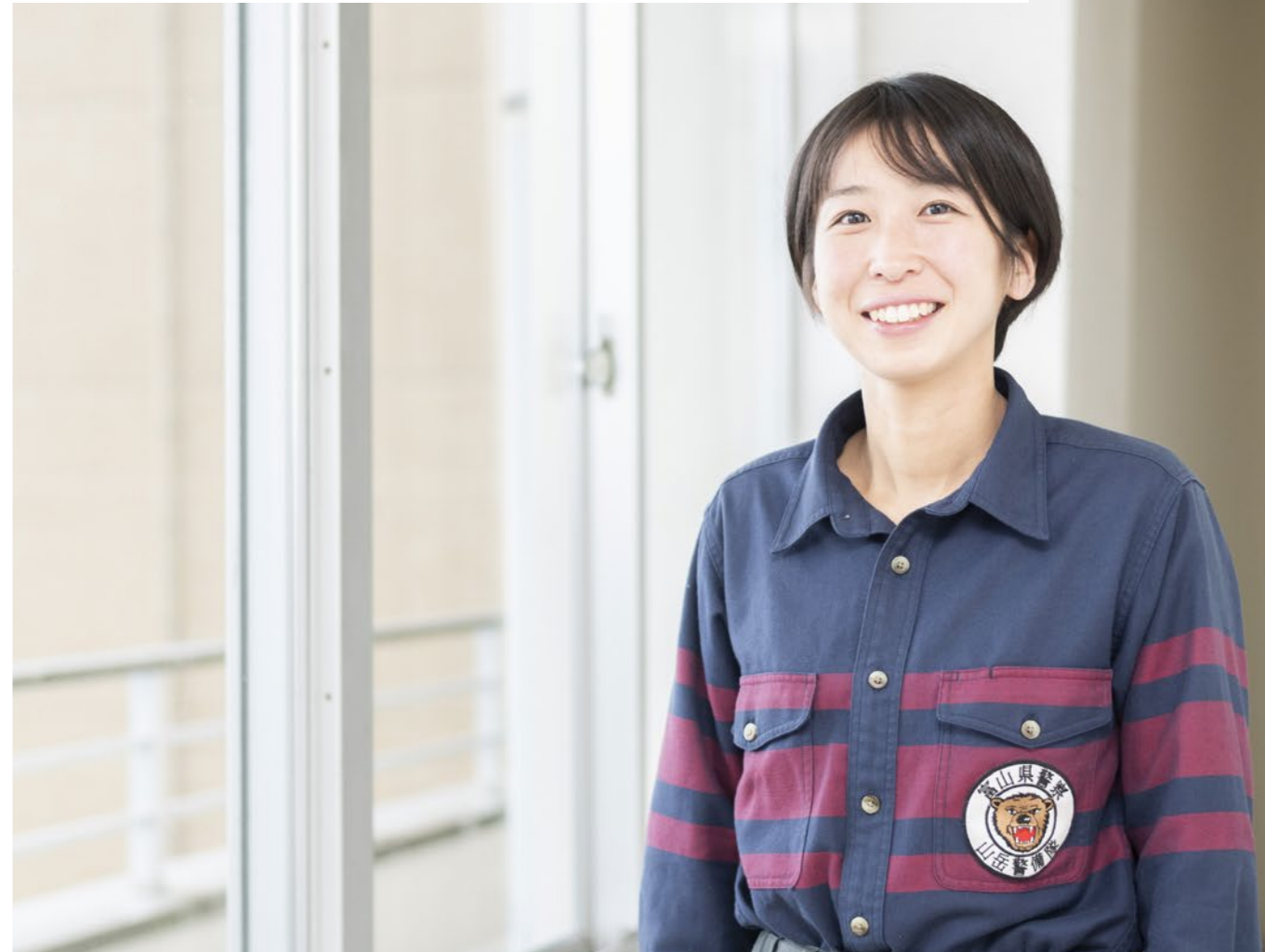
宗派を越えたコラボレーション 「大法要」として地域のお祭りに

入仏式は、地域の人々を元気づける大きなイベントにしたいと考え、同じ上市町にある大岩山日石寺と宗派を越えて協力し、「大法要」として地域のためのお祭りを開催することになりました。多くの人が立山寺に集まった当日、梅並木での稚児



行列を皮切りに大法要はスタート。改築した観音堂によいよ観音像が設置され、町長の挨拶の後、開眼法要が開催されました。大岩山日石寺の管長による柴燈護摩祈禱も執り行われ、宗派の垣根を越えての素晴らしいコラボレーションがここに実現しました。「人と自然のつながりと信仰の姿を体現した今回の観音像建立によって、多くの方々に安らぎと思いやりの心を深めていただく一助となるように」。その住職の言葉通り、地域の人々を見守ってくれる心強く大きな存在がまたひとつ、上市町に誕生した瞬間を見届けました。

富山県警山岳警備隊、唯一の女性隊員 田中明希子さんが語る「山との向き合い方」



「富山が良い！」と決めていたんです。景色も他の山に比べて、格段に綺麗だったので、富山で働くことしか頭にはありませんでした。

実際の仕事はどんなことをされているのですか？

登山者の救助や遭難防止の警備以外にも、本番に備えて年間を通じて約60日間の訓練を行っています。中でもつらい訓練は夏山シーズン直前に行われる9日間の訓練です。50キロほどの荷物を持って剣沢に入り、危険箇所を回ったり岩登りをしたりしながら、体力と技術を身に付けます。さらに積雪期訓練は10日間もおおよび、剣岳の最も厳しい条件下で行われるため、恐怖すら感じます。

訓練以外の時期は交番勤務をしているのですが、自分は体力が課題の一つなので、自主的に3日に1回は、50キロの荷物を担いで山を登って下りてという歩荷訓練を続けています。



写真提供：富山県警山岳警備隊



どんなときにやりがいを感じますか？

北アルプスの剣岳帯は国内有数の豪雪地帯のため、ラッセル(雪をかき分けて進むこと)をとっても他の山域と格段の差があります。こうした国内最高レベルの山域で活動することに緊張や怖さを感じる反面、救助活動を仕事にできることを嬉しく思います。また、怖くて、苦しくて、つらい思いをする分、救助活動を無事に終えた後の達成感には他では味わえないものだと思います。救助した方から「ありがとう」という言葉をかけていただける、やって良かったなと実感します。

今後、目指す姿は？

ずっと憧れていた富山の山岳警備隊の一員になれたことが信じられなくて、まだ現実味が無いというのが本音ですが、唯一の女性として、また看護師としての経験も活かして優しい警備隊員になりたいと思っています。男性隊員と同じように強くはなれないけれど、山で困った人に安心してもらえるような頼りになる存在になりたいです。

看護師の経験を活かしながら
優しく、頼りになる警備隊員になりたい

富山県警山岳警備隊からのお願い

山の大きさや標高にかかわらず、登山に出かける際には下記の項目は必ず守ってください！

行き先やスケジュールを家族や友人に伝える。もしくは登山届を提出する！

気軽な日帰り登山、山菜採りなどで行方不明になるケースが多発しています。簡単な山だから…山菜をちょっと取りに行くだけだから…その甘えが命取りになる場合も。たとえ登り慣れた山であっても、身近な方に必ず伝えてください。



雨具とヘッドランプはどんな山でも必ず持って行く！

雨具は生存に欠かせない体温低下を防ぐと共に負傷箇所の固定に利用可能です。山の天気は特に変わり易いので必ず持って行きましょう。暗闇で視覚を失った活動は不可能。また、ヘッドライトの照射は昼間でも捜索時の目印となります。※手が塞がる懐中電灯は危険です。もちろんスマートフォンのライトもダメです。



携帯電話は予備バッテリーを忘れず携帯する！

日常生活で多くを依存している大切なアイテムであり、「オンライン登山届システム」、「地図アプリ」、「救助要請等」、現代の登山者には必須の装備です。登山の途中で携帯の電池がない！ということがないように、予備バッテリーを必ず携帯してください。



3 000メートル級の山々が連なる北アルプスで登山者の救助や遭難防止の警備を行い、その技術の高さと実績から「日本一の山岳警備隊」と称されることも多い富山県警察山岳警備隊。発足から57年目に於いて初の女性隊員となる上市署の田中明希子さんに、これまでのご自身のこと、仕事のこと、今後について、お話をうかがいました。

昔から山に関心があったのですか？

小さい頃からよく父に連れて行ってもらってました。キャンプをしたり山登りをしたり、山にはたくさん楽しい思い出があります。14歳あたりで、父から山岳警備隊という仕事があるということを知り、すごく興味を持ったことを覚えています。

高校卒業後に警察の道へ？

チャレンジしたい気持ちはあったのですが、山岳警備隊となつて山で人を助けるには体力が必要だということも理解してました。ただその覚悟が高校生の頃にはまだなく、看護を学べる大学に進みました。山岳警備隊と同じく人を助けられる看護師の資格を取って、それを武器として身につけ、タイミングが来たときに山岳警備隊の仕事にも挑

戦したいと思っていました。大学卒業後、京都で看護師として病院で3年勤めました。

看護師から警察に転身されたのですか？

看護師の仕事にやりがいを感じていましたし、このままずっと看護師でもいいかな…と思った時期もありました。でも、先輩や同僚の「やりたいなら挑戦してみたら」という声の後押しとなり、富山県警の採用試験を受けて合格することができました。最初から山岳警備隊への配属希望を出してはいたのですが、なかなか入れず、交番勤務をしていました。「なぜ入れないのだろう？」と調べてみると、富山県警の山岳警備隊に女性が入隊した前例がないことを、そのとき初めて知りました(笑)。4年後ようやく入隊が決まったときは、嬉しさと同時に、「いよいよ楽しんでばかりはいられないな」という緊張感も生まれました。

山岳警備隊の中でもなぜ富山へ？

学生時代に友人や山岳部の先輩と何度か立山に登っていました。特に大学4年生のときに登った剣岳は標高が高くて、山が迫り来る感覚を初めて味わいました。それがものすごく強く印象に残っていて、「山で働くな

上市町新町制70周年特別編

上市町の姉妹都市 千葉県九十九里町

姉妹都市のきっかけは意外なところに……。山のまちから海のまちへ、上市町と九十九里町との繋がりを探りに行きました。

千 千葉県東部に位置する九十九里町は、人口約一万三千人が暮らす海辺のまち。昭和40年に九十九里町と上市町は姉妹都市宣言を行い、以降、長きにわたりさまざまな形で交流を深めてきました。

劔岳の麓にある上市町と太平洋沿岸にある九十九里町は、一見対極のようにも感じられますが、結びついた経緯は一体どのようなものだったのか……。

上市町役場の資料によると「上市町の売薬さん」が仲を取り持った、という史実が記されていました。富山の売薬文化が生んだと言っても過言ではない両町の姉妹都市関係についてはきつと、町の行事などで知る方も多かったことと思います。

半世紀を超える時の中で交流を深めてきた九十九里町には、一体どんな暮らしや文化が根付いているのでしょうか。まだまだ知らない姉妹都市の魅力を探るべく、千葉県九十九里町まで遠征取材を敢行しました。

上市町との繋がりに感じる
九十九里町役場

まちの中心部に建つ「九十九里町役場」へ。役場の方に上市町との繋がりをたずねたところ、上市町から九十九里町に贈った石の存在を教えてくださいました。現在、役場の周りには多数の石が配置されており、



それらはほぼ上市町から九十九里町に贈られたものだから……。

石の種類は、早月川の花崗研磨岩や白岩川の安山岩などの自然石であることが、資料に記されています。もともとは学校造園のために贈られた石であり、別の場所から現在の役場に移動したものだそう。

早速、九十九里町役場で上市町との繋がりを感ずることができました。



九十九里の魅力が一堂に集まる
海の駅九十九里

片貝漁港前にある「海の駅九十九里」は、九十九里の名産や文化を一度に知ることのできる立ち寄りスポットです。

施設入り口に併設する「いわし資料館」には、九十九里のイワシ漁の歴史を紐解く貴重な資料が数多く展示されており、それらから「イワシのまち」と呼ばれる所以を学び知ることができます。

中に進むと、九十九里や千葉県のお土産、地場物が所狭しと並びます。片貝漁港で水揚げされたばかりのイワシやハマグリなど、新鮮な魚介や畑で採れたみずみずしい野菜たち。観光客のみならず、近所の方も利用されることが多いと、スタッフの方に教えていただきました。

数ある名産品の中でも特に気になったのが「イワシの胡麻漬



美しくてあたたかい
魅力あふれる海のまちでした



日本最大級の
砂浜海岸・九十九里浜

九十九里といえば、九十九里浜の存在を外すことはできません。太平洋に面する九十九里浜は、千葉の刑部(ぎょうぶ)岬から太東(たいとう)岬まで、全長約66キロメートルにもおよぶ弓状の海岸線のことを指し、日本最大規模の砂浜海岸として全国にその名が知られています。

九十九里浜のほぼ中央に位置する九十九里町。首都圏からのアクセスも良いことから、取材を行った週末には県内外からサーフィンをはじめとする多くのマリンスポーツ愛好家たちで賑わいを見せていました。



海岸に立つと、その海の広さに驚かされます。見渡す限り、どこまでも続く九十九里の砂浜と地平線。太陽が山からのぼる富山とは反対に、地平線から顔を出す太陽は、早朝の九十九里

け」や「イワシの南蛮漬」といった加工品です。ほとんどが地元で日常的に食べられている郷土料理だそう。なんと、これら加工品と地場野菜の一部は上市町の「カミール」でも購入することができますんですよ。国内唯一の青い丸型ポストが目印の「海の駅九十九里」で、海風を感じながら楽しい時間を過ごすことができました。

上市町から九十九里町へ
交流続く「産業まつり」

上市町と九十九里町がこれまで互いに行き来するなかで、最も多くの町民が触れ合う機会となるのが「剣岳雪のフェスティバル」(上市町開催・現つるぎフェスティバル)と「いづみ」(九十九里町開催)です。「産業まつり」は九十九里町の農産物と地域産業を紹介し産業振興を目的とした催事で、今回は5年ぶりの開催。コロナ禍を経て、上市町は7年ぶりの参加が叶いました。

上市町が催事でふるまうのは「上市産黒毛和牛の牛串」。炭火で焼き上げた牛串を目的に、住民の方々の長蛇の列ができていました。住民の方たちが嬉しそうに牛串を頬張る姿を見て、とても嬉しい気持ちになったのは言うまでもありません。

海のまち・九十九里町と山の

浜を美しいピンク色に染め上げていきました。富山では決して見ることのできない庄巻の景色に、心打られました。

イワシの漁場で栄えた
漁業のまち

外海に面した九十九里町は、江戸時代よりイワシの漁場として栄えた漁業のまちでもあります。現在も底曳き網といった漁船漁業が営まれ、また広大な砂浜では古くから続く「手かき漁」で、ハマグリなどの採貝漁業も盛んに行われているのだそう。

海岸線に沿って点在するレストランや食堂では、新鮮なイワシをつかった多彩な料理や、肉厚で食べごたえのあるハマグリのお刺身など、富山ではお目にかかれない海鮮珍味の数々を味わうことができます。



まち・上市町。大きく異なる自然環境ではあるものの、そこにはたくさんの方々の魅力と、あたたかく優しい人々とのふれあいがありました。

これからもさまざまな交流を重ねながら、未永い姉妹都市の関係が続くことを願っています。



取材を通して（ライター後記）

4号目にして、初となる県外取材を行いました。行き先は、上市町と長きにわたり姉妹都市関係にある千葉県九十九里町です。山のまちは真逆の環境にあたる海のまち。そこには素晴らしい景色と文化がありました。現地では出会った方々はみなさん気さくで、「富山県の上市町から来ました」と話すと、それぞれが持ちの富山の知識やエピソードを話してくださったことがとても印象に残っています。

今号のテーマは過去から現在、そして現在から未来へ脈々と「継がれていく」こと。

今までもこれから先も大切に守り継ぎたい、上市町の伝統・文化、そして人をご紹介します。

きっと、あなたも。

RE:DISCOVER
KAMIICHI



KAMIICHI
TOYAMA, JAPAN

発行：上市町観光協会

TEL/076-472-1515 WEB/kami1tabi.net

取材・文/居場 梓 撮影/利波由紀子 デザイン/GATHER AROUND